

特集

高次脳機能障害の診断とリハビリテーション

高次脳機能障害の診断や評価では、画像診断における個人差や症状の状況依存性などを考慮する必要があり、高次脳機能障害者に対するリハビリテーションや支援は長期にわたって継続することが求められています。今回の特集では、「高次脳機能障害の診断とリハビリテーション」というテーマで、画像診断、記憶障害、注意障害、遂行機能障害、および社会的行動障害を取り上げ、これらについてご解説いただきました。

画像診断 海野聰子氏……………997

画像診断の目的は、高次脳機能障害の責任病巣を明らかにし、症状と対応させてリハビリテーションに役立てることにある。脳形態画像の読影に必要である解剖学的基本事項として、目印となる脳溝、大脑皮質の解剖学的区分と細胞構築学的区分、脳の血管支配、神経線維束の走行について概説した。さらに脳機能画像研究の最近の話題について紹介した。

記憶障害 岡崎哲也氏……………1005

記憶障害の評価には問診とともに神経心理学的検査が欠かせない。記憶障害の程度だけでなく、知能、注意、遂行機能、意欲、病識なども評価し、それぞれの症例に適した補助手段を活用した個別的なアプローチを行う。本稿では、記憶障害の評価によく用いられる神経心理学的検査と補助手段の活用を含めたリハビリテーションの進め方について概説した。

ニュース 障害児ケア専門家配置—文部科学省……………1004

「安易に公表しないで」—病名で警視庁に要望（てんかん協会）……………1004

「ノーマライゼーション 障害者の福祉」9月号・特集目次……………1004

入院中の通訳支援を一水戸市に要望書（障害者支援団体）……………1010

雇用する障害者を虐待、18%増の299事業所で—2014年度の発生状況公表（厚生労働省）……………1010

要支援者名簿の作成52%—災害対策で市町村調査（消防庁）……………1010

施設建設へ支援を募る—NPO法人フィリアの会（安城市）……………1030

水族館お届け—障害者・高齢者施設や病院へ……………1059

本の喜び誰にでも、重度心身障害者向け配本—中央図書館が取り組み（岡山）……………1077

注意障害 豊倉穰氏	1011
注意障害は全般性と方向性（半側空間無視）に分けられるが、本稿では前者を扱うこととし、診断、神経心理学的検査や行動観察による評価、およびアプローチについて解説した。アプローチには、注意障害そのものに対する刺激法、残存機能を用いて社会生活上の作業課題を遂行する訓練、生活環境の整備や代償手段などがあり、これらの手順を紹介した。	
遂行機能障害 原寛美氏	1021
遂行機能障害では、前頭前野の障害により、後部脳が担う認知機能を動員して目標を設定できない、一連の思考や行動を正しい順に選択ができないなど多様な特性を有している。このため、臨床症状と神経心理学的検査を総合して診断する必要がある。認知リハビリテーションに関しては、問題解決訓練とゴールマネージメント訓練を中心に解説した。	
社会的行動障害 平岡崇氏ら	1031
社会的行動とは、他者の意図や感情を理解し、自己の欲求や感情を抑えて状況に適したコミュニケーションを取る行動である。その障害に対して標準化された机上検査は存在せず、詳細な問診や行動観察により診断する。治療に関しては、薬物療法、認知行動療法的手法を取り入れたりハビリテーション、および環境調整など集学的アプローチが重要である。	
お知らせ	
2016年度ボバース概念に基づく成人中枢神経疾患に対する評価と治療（認定基礎講習会）	1009
2016年度近代ボバース概念小児領域8週間講習会	1030
一般社団法人大阪府臨床工学技師会第5回実践呼吸療法セミナー	1054
訂正とお詫び	1065